

# 刊行物および講演・口頭発表

土屋俊

2009年3月10日

## 1 著書

1. 逸村裕・竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』勁草書房、2005年7月(「大学改革の流れと大学図書館」pp.19-28を分担執筆).
2. 根岸正光、伊藤義人、佐藤寛子、安達淳、早瀬均、Ann Okerson、Raym Crow、James Testa、土屋俊『電子図書館と電子ジャーナル-学術コミュニケーションはどう変わるか』(情報学シリーズ8 国立情報学研究所監修)丸善、2004年5月、(パネルディスカッション「5年後の学術コミュニケーション」pp.126-135を共同執筆).
3. 安達淳、高野明彦、坂上光明、増田豊、土屋俊『電子ジャーナルで図書館が変わる』(情報学シリーズ6 国立情報学研究所監修)丸善 2003年2月(「電子ジャーナルと大学図書館」, pp.1-32を分担執筆).
4. 水谷雅彦、越智貢、土屋俊編『情報倫理の構築』(ライブラリ 電子社会システム5)丸善、2003年5月(「コンピュータ・エシックス? インターネットエシックス?」, pp.1-38を分担執筆).
5. 中島秀之、中川裕志、橋田浩一、松原仁、大澤幸生、高間康史、土屋俊編『AI事典 第2版』共立出版、2003年3月(共著、共編).
6. 辻幸夫編『ことばの認知科学事典 I章 言語と認識』大修館書店、2001年7月(「言語と認知の哲学的諸問題の概略と今後」pp.5-18を分担執筆).
7. 越智貢、水谷雅彦、土屋俊編『情報倫理学:電子ネットワーク社会のエチカ』(叢書:倫理学のフロンティア4)ナカニシヤ出版、2000年7月(「情報技術者の職能倫理-情報処理学会倫理綱領を中心に」pp.108-144を分担執筆).
8. 岡田節人他編『問われる科学/技術』(岩波科学講座 技術と人間 第1巻)岩波書店、1999年1月(「技術の変貌と再定義」pp.128-153を分担執筆).
9. Jon Barwise, Mark Gawron, Gordon Plotokin and Syun Tutiya, *Situation Theory and Its Applications vol.2*, Chicago University Press, October,1991(共編、pp.215-227, pp.517-532を分担執筆).
10. 飯田隆、土屋俊編『ウィトンゲンシュタイン以後』東京大学出版会、1991年2月(「ウィト

ゲンシュタインと現代日本哲学」(pp.1-21) および「言語行為の中の指示」pp.152-170) を分担執筆。共編).

11. 広中平祐編集委員会代表『現代数理科学事典』大阪書籍、1991年3月(「数理言語学 [4] 意味論」 pp.403-408 を分担執筆).
12. 市川浩ほか編『交換と所有』(現代哲学の冒険) 岩波書店、1990年12月(「情報はだれのものか—知識への権利」 pp.197-258. を分担執筆).
13. 沢田允茂、黒田亘編『哲学への招待』(有斐閣双書) 有斐閣、1988年3月(「心の哲学」を分担執筆).
14. 中島秀之・松原仁・橋田浩一・土屋俊編『AI 事典:人工知能の百科事典』UPU 1988年12月(共著、共編).
15. 土屋俊『心の科学は可能か』東京大学出版会 1986年8月(単著).
16. 大森荘蔵ほか編『記号・論理・メタファー』(新岩波講座・哲学第三巻)、岩波書店、1986年5月(「記号と情報」 pp.69-92 を分担執筆).
17. 野家啓一編『哲学の迷路:大森哲学批判と応答』産業図書、1984年6月(「唯名論的言語論の可能性」 pp.349-382 を分担執筆).
18. 川本茂雄ほか編『記号を哲学する』(講座・記号論 2) 勁草書房、1982年9月(「言語行為における記号と言語」 pp.155-177 を分担執筆).
19. 小林康夫ほか著『ゲームの臨海:アゴーンとシステム』(講座=思考の関数) 朝日出版社、1983年12月(「何種類の言語行為があるか」 pp.108-133 を分担執筆).
20. 坂本百大編著『新版ことばの哲学』(現代哲学選書) 北樹出版 1983年4月(「言語行為論」 pp.215-228 を分担執筆).

## 2 査読された学術論文

1. Syun Tutiya, Hiroya Takeuchi, Yoshinori Sato, Hiroshi Itsumura. "ILL/ DD in Japan across the turn of the century: Basic findings about NACSIS-ILL from 1994 to 2005." Progress in Informatics, No. 4, 2007.3, pp.29-49.
2. 米田菜穂、竹内八重子、加藤晃一、竹内比呂也、土屋俊「ビッグ・ディール後の ILL - 千葉大学附属図書館亥鼻分館における調査 - 」、『大学図書館研究』No.76、2006年3月、pp.74-81.
3. 土屋俊「COUNTER プロジェクト:序論」、『情報管理』Vol.47 No.4、独立行政法人科学技術振興機構、2004年7月、pp.242-244.
4. 大矢一志、土屋俊「システムが決まらなければデータベースは出来ないというのは本当か - テキストベースデータモデル利用の提案 - 」、『第2回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム報告書』、アートドキュメンテーション研究会編、2000年3月、pp.92-102.
5. 堀内靖雄、中野有紀子、小磯花絵、石崎雅人、鈴木浩之、岡田美智男、仲真紀子、市川熹、

- 土屋俊「日本語地図課題対話コーパスの設計と特徴」『人工知能学会誌』14巻2号、人工知能学会、1999年3月、pp.261-272.
6. 堀内靖雄、石崎雅人、前川喜久雄、土屋俊「音声対話コーパスの共有化へ向けて」『人工知能学会誌』14巻2号、人工知能学会、1999年3月、pp.231-242.
  7. Hanae Koiso, Yasuo Horiuchi, Syun Tutiya, Akira Ichikawa and Yasuharu, Den, “An Analysis of Turn-Taking and Backchannels based on Prosodic and Syntactic Features in Japanese Map Task Dialogue,” *Language and Speech* Vol.41, No. 3-4, pp.295-322,Kingston Press Ltd.
  8. David Israel, John Perry and Syun Tutiya, “Executions, Motivations and Accomplishments”,*Philosophical Review* vol.102 No.4, 1993.10, Cornell University, pp.515-540
  9. 土屋俊「心の哲学の決算」、『哲学雑誌』107巻779号、1992年10月、pp.174-190
  10. Syun Tutiya and Keith Devlin, “Situation Semantics”*Encyclopedia of Metaphysics and Ontology*,1992,Philosophia Verlag.
  11. 土屋俊「“フレグにおける固有名の意味について—『意味とさされるものについて』論文冒頭箇所の解釈をめぐる”」、『哲学雑誌』94巻766号、有斐閣1979年10月、pp.166 - 182.
  12. 土屋俊「フレグの『概念記法』の目的について-言語の概念をめぐる」、『科学哲学』12巻、早稲田大学出版部、1979年10月、pp.63-76.

### 3 招待された学術論文

1. 土屋俊「学術情報流通と大学図書館」、『日本図書館情報学会研究委員会編『学術情報流通と大学図書館』、勉誠出版、2007年10月、pp. 3-22.
2. 土屋俊「学術情報流通の動向」、『現代の図書館』Vol.42 No.1、日本図書館協会、2004年9月、pp.3-30.
3. 土屋俊「大学改革の流れと大学図書館」、『図書館雑誌』第97巻第5号、日本図書館協会、2003年5月、pp.284-287.
4. 土屋俊「電子ジャーナル： - 短い歴史から学ぶこと - 」、『情報の科学と技術』vol.52 No.2、社団法人情報科学技術協会、2002年2月、pp.68-72.
5. 土屋俊「知識化社会における大学改革の中の大学図書館」、『大学図書館研究』No.60、国公私立大学図書館協力委員会編、学術文献普及会、2001年2月、pp.1-7.
6. 土屋俊「音声対話システムが教えること」、『日本音響学会誌』54巻11号、日本音響学会、1998年11月、pp.818-822.
7. 土屋俊「移動ロボットの製作原理に関する基礎的考察」、『哲学』第39号、法政大学出版会、1989年4月、pp.1-14.
8. 土屋俊「心理学の過去と未来」、『現代科学と現象学:現象学年報3』pp.65-76(北斗出版1987)

年 3 月)。

9. 土屋俊「不合理な信念」、『哲学雑誌』100 巻 772 号、有斐閣、1985 年 10 月、pp.128-143.

#### 4 その他の学術論文

1. 土屋俊「近代言語学の歴史」、『月刊言語』Vol.34 No.4、大修館書店、2005 年 4 月、pp.22-29.
2. 土屋俊「日本国著作権法第 31 条の倫理的位相」、『情報倫理学研究資料集』「情報倫理の構築」プロジェクト(京都大学文学研究科) 2001 年 6 月、pp.41-46.
3. 土屋俊「文献検索と全文データベース」、『Electrochemistry Vol.69 No.5、社団法人電気化学会、2001 年 5 月、pp.344-346.
4. 土屋俊「文化と学術におけるデジタル文書の将来」、『Merkmal』vol.10、社団法人日本経営協会デジタル文書研究会、2001 年 3 月、pp.2-4.
5. 土屋俊「ゲームの一手としての語」、『月刊言語』Vol.28 No.12、大修館書店、1999 年 12 月、pp.41-48.
6. 土屋俊「情報倫理とは何か」「情報倫理の構築プロジェクトと学校教育」、『'99 インターネットと教育フォーラム』インターネットと教育フォーラム実行委員会、情報倫理の構築プロジェクト 1999 年 11 月、pp.197-200、pp.215-217.
7. 土屋俊「モダリティの議論のために」、『月刊言語』Vol.128 No.12、大修館書店 1999 年 6 月、pp.84-91.
8. 土屋俊「情報処理技術の特徴とその倫理的意義：とくにインターネット技術について」、『情報倫理学研究資料集』情報倫理の構築プロジェクト(京都大学文学研究科) 1999 年 3 月、pp.5-16.
9. 堀内靖雄、吉野文、仲真紀子、土屋俊、市川薫「千葉大学地図課題対話コーパスプロジェクト The Chiba Map Task Dialogue Corpus Project」、『千葉大学工学部研究報告』第 48 巻第 2 号通巻 94 号、1997 年 1 月、pp.33-60.
10. 土屋俊、米田英一、松本恒男、塚本秀雄、名和小太郎『情報処理学会倫理綱領』(情報処理学会倫理綱領策定委員会編)「情報処理学会倫理綱領の基本的考え方」を分担執筆(情報処理学会、1997 年 1 月、pp.37-79).
11. 土屋俊「言語の開かれた概念を求めて」、『月刊言語』25 巻 4 号(大修館書店 1996 年)、pp.76-83.
12. 土屋俊「文から語へ」、『月刊言語』25 巻 11 号(大修館書店 1996 年).
13. 土屋俊「インターネットは来たるべき電子化社会の範型たりうるか」、『情況』特集インターネット、情況出版、1995 年 4 月、pp.85-96.
14. 土屋俊「電子化された世界の言語問題」、『月刊言語』23 巻 5 号、大修館書店、1994 年 5 月、pp.86-91.
15. 土屋俊「日本における分析哲学の現状、終焉あるいは将来」、『理想』654 号、理想社、1994

年 12 月。

16. 土屋俊「品詞をめぐる言語学と哲学の戦い」『月刊言語』22 巻 10 号、大修館書店、1993 年 10 月、pp.74-81.
17. 土屋俊「信頼の基礎」『現代思想』20 巻 1 号、青土社、1992 年 1 月、pp.226-230.
18. 土屋俊「語用論から認知科学へ - 言語学の新しい方向を探る」『月刊言語』20 巻 10 号、大修館書店 1991 年、pp.22-29.
19. 土屋俊「信頼のモデル」『現代思想』19 巻 10 号、青土社、1991 年 10 月、pp.269-276.
20. 土屋俊「信頼と損得」『現代思想』19 巻 9 号、青土社、1991 年 9 月、pp.214-221.
21. 土屋俊「交換のパラドクス」『現代思想』19 巻 8 号、青土社 1991 年 8 月、pp.245-255.
22. 土屋俊「テキストデータベースの現状と展望」『日本語学』10 巻 8 号、明治書院、1991 年 8 月、pp.37-55.
23. 土屋俊「何が約束されるのか」『現代思想』19 巻 7 号、青土社 1991 年 7 月、pp.228-235.
24. 土屋俊「約束と農業協同組合」『現代思想』19 巻 6 号、青土社 1991 年 6 月、pp.201-210.
25. 土屋俊「約束論のための慣習論序説」『現代思想』19 巻 5 号、青土社 1991 年 5 月、pp.278-285.
26. 土屋俊「ヒューム約束論の一側面」『現代思想』19 巻 4 号、青土社 1991 年 4 月、pp.199-205.
27. 土屋俊「日本語の意味論を求めて:1 月:『が』は『格』助詞か、2 月:「いくつの」『が』があるか、3 月:「『が』と認知」、4 月:「日本語に疑問文はない」、5 月「選択・疑問・詠嘆・存在の『か』」、6 月「『あっ、そうか』の意味論」、7 月「日本語『代名詞』事情」、8 月「『誰』とは誰か」、9 月「犬と DOG」、10 月「犬を数える」、11 月「犬は出来事か?」、12 月「束縛と統率からの自由」』『月刊言語』、大修館書店、1990 年。
28. 土屋俊「約束と『心の働き』」『現代思想』18 巻 8 号、青土社、1990 年 8 月、pp.138-149.
29. 土屋俊、廣松渉「知性をもつハードウェア - 認識から行為へ」『現代思想』18 巻 2 号、青土社 1990 年 8 月、pp.40-67.
30. 土屋俊「ヒュームにまなぶ」『現代思想』18 巻 4 号、青土社、1990 年 4 月、pp.261-269.
31. 土屋俊「約束を破る義務の無意味さ」『現代思想』18 巻 2 号、青土社、1990 年 2 月、pp.187-191.
32. 土屋俊「約束破りの倫理と論理」『現代思想』18 巻 1 号、青土社、1990 年 1 月、pp.230-238.
33. 土屋俊「ゲーデルから学んではならないもの」『現代思想』17 巻 8 号、青土社、1989 年 12 月、pp.65-71.
34. 土屋俊「便利なオフィスの設計について - 現代オフィスオートメーション理論序説」『創文』303 号、創文社、1989 年 9 月、pp.14-18.
35. 土屋俊「動詞は名詞とどこが違うのか—名前としての動詞」『月刊言語』18 巻 9 号、大修館書店、1989 年 9 月、pp.72-77(『言語・哲学コレクション』第 1 巻に再録)。
36. 土屋俊「大学と産業の協力と大学の理念」『現代思想』17 巻 8 号、青土社 1989 年 7 月、pp.202-211.
37. 土屋俊「科学研究の国際分業」『RIRI』No.176、流通産業研究所、1989 年 6 月、pp.27-29.
38. 土屋俊「信念報告の意味論から信念の意味論へ」『現代思想』No.17, Vol.7、青土社、1989 年

6月、pp.246-255.

39. 土屋俊「知識と犯罪」、『現代思想』1989年5月、青土社1989年5月、pp.191-197.
40. 土屋俊「変項と代名詞」、『現代思想』16巻8号、青土社1988年7月、pp.194-203.
41. 土屋俊「なぜ意味論はいまおもしろいか」、『月刊言語』16巻13号、pp.54-61(大修館書店1987年).
42. 土屋俊「認知科学の全体像」、『月刊言語』16巻4号、pp.20-30(大修館書店1987年)
43. 土屋俊「指示詞としての固有名詞(名詞・代名詞の諸相;特集) - (名詞さまざま)」、『国文学解釈と鑑賞』pp.61-64(至文堂1987年2月)
44. 土屋俊「人間に関するチョムスキーの誤解」、『月刊言語』15巻12号、大修館書店、1986年12月、pp.156-163
45. 土屋俊「戦後日本における心身問題の帰結」、『文藝別冊』現代思想の饗宴-あるいは思想の世紀末、河出書房新社、別冊文藝編集部編、1986年、pp.242-249、
46. 土屋俊「情報の流れと言語の理解」、『現代思想』14巻2号、青土社、1986年1月、pp.114-123
47. 土屋俊「哲学と科学の正しい関係」、『思想の科学』No.68、思想の科学社、1985年11月、pp.53-60
48. 土屋俊「心の科学とは何か——『認知科学』における『科学』の概念」、『理想』628号、理想社、1985年9月、pp.59-62
49. 土屋俊「情報処理系の科学」、『月刊言語』14巻6号、大修館書店、1985年6月、pp.38-42
50. 土屋俊「チュリングテスト再考」、『千葉大学人文研究 人文学部紀要』14号、千葉大学人文学部、1985年3月、pp.37-54
51. 土屋俊「認知科学の基礎と心の哲学」、『理想』620号、理想社、1985年1月、pp.115-126
52. 土屋俊「アメリカ記号学の動向」、『記号学研究』4巻、日本記号学会、1984年、pp.263-277
53. 土屋俊「固有名を他の一般名辞から区別するための条件について」、『千葉大学人文研究 人文学部紀要』13号、千葉大学人文学部、1984年3月、pp.71-87
54. 土屋俊「言語行為における意図の問題」、『理想』596号、理想社、1983年1月、pp.127-139
55. 土屋俊「語用論の論理的研究について」、『月刊言語』9巻12号、大修館書店1980年、pp.40-41
56. 土屋俊「言語行為論の展開——『間接的言語行為』という話題をめぐって」、『月刊言語』9巻12号、大修館書店、1980年12月、pp.32-41
57. 土屋俊「どうやって意味をとらえるか——論理学からの接近」、『月刊言語』8巻10号、大修館書店、1979年10月、pp.48-57

## 5 その他総説等

1. 土屋俊「情報環境の変貌と学術研究の将来」、『學鐙』、丸善、2009年3月、pp.22-25.
2. 土屋俊「誰も来ない図書館」、『丸善ライブラリーニュース復刊第4号』、丸善、2008年11

月,pp.4-5.

3. 土屋俊「機関別認証評価に参加して」、『IDE 現代の高等教育： 特集 認証評価の現段階』、IDE 大学協会、2008 年 10 月,pp.40-42.
4. 土屋俊「図書館のこれから」、『丸善ライブラリーニュース』、丸善、2007 年 11 月,p.2 ダウンロード
5. 土屋俊「オースティン 『言語と行為』」、『月刊言語』、大修館書店、2007 年 8 月、pp.98 - 103
6. 土屋俊「大学図書館」、『2008 年版大学ランキング』、朝日新聞社、2007 年 5 月、pp.158 - 163
7. 土屋俊「進展する IT 化社会における出版の将来 - 大学図書館からの視点 - 」、『梓会通信』(月例研修会収録記事) 第 356 号、社団法人出版梓会、2006 年 8 月、pp.1-8.
8. 土屋俊「書評 ダニエル・C・デネット『自由は進化する』」、『日経サイエンス 10 月号』、日経サイエンス社、2005 年 8 月、p.136.
9. 土屋俊「電子出版'03」、『文藝年鑑』日本文藝家協会編、新潮社、2004 年 7 月、pp.66-68.
10. 武内八重子、鹿島玲子、土屋俊「図書館の活用方法」、『アエラムック勉強のやり方がわかる』朝日新聞社、2004 年 3 月、pp.60-66.
11. 土屋俊「学術コミュニケーションの動向と著作権」(金沢大学附属図書館シンポジウム講演要旨)、『金沢大学附属図書館報』152 号、金沢大学附属図書館広報委員会編、2004 年 2 月、pp.2-5.
12. 土屋俊「電子出版'02」、『文藝年鑑』日本文藝家協会編、新潮社、2003 年 7 月、pp.64-67.
13. 土屋俊「電子ジャーナルおよび電子図書館の最新動向」、『データベース白書 2003』、財団法人データベース振興センター、2003 年 5 月、pp.206-212.
14. 土屋俊「電子的情報流通のなかの大学図書館と国立国会図書館」、『国立国会図書館月報』No.500、国立国会図書館、2002 年 11 月、p15.
15. 永井均、中島義道他編『事典 哲学の木』「心 mind」を分担執筆、講談社、2002 年 3 月、pp.384-385.
16. 土屋俊「デジタルキャンパスの実現」、『徳島大学附属図書館報』、徳島大学附属図書館、2001 年 12 月、pp.6-8.
17. 土屋俊「知っておきたい最新のキーワード「電子ジャーナル」」、『MEDICAL PHARMACY』Vol.35 No.6、エルゼビア・サイエンス株式会社 第一製薬株式会社発行、2001 年 11 月、p.43.
18. 土屋俊「言語の 20 世紀 101 人：カルナップ、オースティン、パーワイズを分担執筆」、『月刊言語別冊』30 巻 3 号、大修館書店、2001 年 2 月、pp.68-69(カルナップ)、pp.118-119(オースティン)、pp.204-205(パーワイズ)。
19. 土屋俊「語用論 (日本語論へのアプローチ)」、『別冊国文学』Vol.53、学燈社、2000 年 11 月、pp.109-113.
20. 土屋俊「大学図書館ランキング」、『2001 年版大学ランキング』、朝日新聞社、2000 年 5 月、

pp.178 - 183.

21. 土屋俊「あと4年で解ける情報倫理の問題」、『FINE 千葉研究会報告書』、FINE 千葉事務局（「情報倫理の構築」プロジェクト、千葉大学文学部）2000年3月、pp.13 - 21.
22. 土屋俊「「インターネット」に「次世代」はない」、『InterCommunication』Autumn No.30、NTT 出版株式会社、1999年10月、pp.122-129.
23. 土屋俊「学術コミュニケーションの新しい媒体としてのインターネット」、『シュプリング・サイエンス』Vol.9, No.1 Spring1994、シュプリング・フェアラク東京（株）1994年、pp.9-14.
24. 土屋俊「「ウィトゲンシュタイン」再入門(1) 「語用論」と「意味の使用理論」」、『月刊言語』23巻7号、大修館書店1994年、pp.100-105.
25. 土屋俊「「ウィトゲンシュタイン」再入門(2) 漸次発展的言語観」、『月刊言語』23巻8号、大修館書店、1994年、pp.98-103.
26. 土屋俊「「ウィトゲンシュタイン」再入門(3) 規則への懐疑」、『月刊言語』23巻9号、大修館書店、1994年.
27. 土屋俊「「ウィトゲンシュタイン」再入門(4) 心と言葉」、『月刊言語』23巻10号、大修館書店、1994年、pp.96-101.
28. 土屋俊「「ウィトゲンシュタイン」再入門(5) 外在的な心の哲学の構想」、『月刊言語』23巻11号、大修館書店、1994年、pp.106-111.
29. 土屋俊「「ウィトゲンシュタイン」再入門(6) これから読む人のために」、『月刊言語』23巻12号、大修館書店、1994年、pp.117-121.
30. 土屋俊「分析と解析」、『数学セミナー』32巻8号、日本評論社、1993年8月、pp.70-73.
31. 土屋俊「言語学のあり方を問う [松村一登氏への質問状(3)]」、『月刊言語』21巻14号、大修館書店、1993年1月.
32. 土屋俊「言語学のあり方を問う [松村一登氏への質問状(2)]」、『月刊言語』21巻12号、大修館書店、1992年11月.
33. 土屋俊「言語学のあり方を問う [松村一登氏への質問状(1)]」、『月刊言語』21巻10号、大修館書店、1992年10月.
34. 土屋俊「解説」、『行為と規範』、勁草書房、1992年1月、pp.234-243.
35. 土屋俊「特集1 20世紀の数学者・物理学者 フォン・ノイマン」、『数学セミナー』Vol.29, No.2、日本評論社、1990年2月、pp.23-26.
36. 土屋俊「言語学は認知革命を生き延びるか」、『月刊言語』19巻1号、大修館、1990年1月、pp.72-77.

## 6 事前査読された講演・口頭発表およびその予稿

1. Hiroya Takeuchi, Yoshinori Sato, Masamitsu Kuriyama, Hiroshi Itsumura and Syun Tutiya “Digital Libraries in Japan: A retrospect,” 名古屋大学電子図書館国際会議 (2005年8月26日 名古屋大学野依記念学術交流館).
2. Hiroshi Itsumura, Masamitsu Kuriyama, Koichi Ojio, Yukiko Sakai, Hiroya Takeuchi and Syun Tutiya, “Institutional repositories in Japanese national universities: historical and philosophical reflections,” Institutional Repositories: The Next Stage (November 18, 2004, Washington D.C.).
3. Akira Ichikawa, Masahiro Araki, Yasuo Horiuchi, Masato Ishizaki, Shuichi Itabashi, Toshihiko Ito, Hideki Kashioka, Keiji Kato, Hideaki Kikuchi, Hanae Koiso, Tomoko Kumagai, Akira Kurematsu, Kikuo Maekawa, Shu Nakazato, Masafumi Tamoto, Syun Tutiya, Yoichi Yamashita, Takashi Yoshimura, “Evaluation of Annotation Schemes for Japanese Discourse”, Proceedings of ACL Towards Standards and Tools for Discourse Tagging WS, 21 June 1999, pp.26-34.
4. Akira Ichikawa, Masahiro Araki, Masato Ishizaki, Shuichi Itabashi, Toshihiko Ito, Hideki Kashioka, Keiji Kato, Hideaki Kikuchi, Tomoko Kumagai, Akira Kurematsu, Hanae Koiso, Masafumi Tamoto, Syun Tutiya, Shu Nakazato, Yasuo Horiuchi, Kikuo Maekawa, Katsuhiko Murakami, Yoichi Yamashita, Takashi Yoshimura, “Standardising Annotation Schemes for Japanese Discourse”, Proceedings of First International Conference on Language Resource and Evaluation, pp.731-736, 1998.
5. John Perry, David Israel and Syun Tutiya, “Actions and Movements”, Proceeding of ICAI’91, August, 1991.

## 7 招待された講演・口頭発表

1. 土屋俊「日本における黎明期のインターネットと『情報処理センター』」TRC/RIBB 特別シンポジウム「インターネットと地域情報化」(2009年2月16日 東京大学小柴ホール)
2. 土屋俊「機関リポジトリは大学図書館を変える」DRF 地域ワークショップ東京 (2009年2月9日 東京工業大学) .
3. Syun Tutiya, “Policy environment for better scholarly communication in Japan,” SPARC Digital Repositories Meeting 2008 (November 17 and 18, 2008, Baltimore, MD, USA) .
4. Syun Tutiya, Wiley-Blackwell Executive Seminar for Society Publishers, (2008年7月5日) .

5. 土屋俊「大学のライフスタイルとしての機関リポジトリ」電子情報通信学会 オフィスイ  
ンフォメーションシステム研究会 (OIS)・グループウェアとネットワークサービス研究会  
(2008年5月23日、千葉大学)。
6. 土屋俊「雑誌論文が研究成果発表の手段であるのはいつまでか」2008年第1回 SPARC  
Japan (国際学術情報流通基盤整備事業) セミナー「研究成果発表手段としての学術誌の将  
来」(2008年4月22日 国立情報学研究所)。
7. Syun Tutiya, “A Consortial approach to scholarly communication in Japan from 2000  
on: Online journals, institutional repositories and resource sharing” 2007 Electronic  
Resources and Consortia, Nov 14-15, 2007 Taipei, Taiwan.
8. 土屋俊「日本の学術情報の電子化 - 絶望の現在と不安な将来」図書館総合展 (2007年11月  
8日、パシフィコ横浜)。
9. 土屋俊「研究インフラとしての大学図書館の将来」科学技術振興機構 50周年記念シンポジ  
ウム (2007年9月5日、経団連会館)。
10. Syun Tutiya, “Can Japanese university libraries keep up with the changes in schol  
arly communicaiton worldwide? or Scholarly Communication in Contemporary Japan:  
Societies, Libraries, Vendors, Funders and Others” Wiley-Blackwell Executive Seminar  
for Society Publishers (July 4, 2007, Tokyo).
11. Syun Tutiya, “Open Access in Asia: The Japanese Perspective,” 9th Fiesole Collection  
Development Retreat (April 13, 2007, The University of Hong Kong).
12. 土屋俊「二股に分かれた長い尻尾:NACSIS-ILL にみる日本の学術と機関リポジトリ」第2  
回 DRF ワークショップ:機関リポジトリをデザインする-設計とコンテンツ」(2007年2  
月9日、早稲田大学)。
13. 土屋俊「電子的学術情報流通における仲介者の役割: エージェント、コンソーシアム、デー  
タベース、そして図書館」第8回図書館総合展 (2006年11月21日パシフィコ横浜)。
14. 土屋俊「インターネット・出版・図書館-大学における電子ジャーナルの活用を中心に」(基  
調講演) 全国図書館大会出版流通分科会 (図書館と出版流通) (2006年10月27日 岡山県  
岡山市)。
15. Syun Tutiya, “Lots of ambivalences: Journal publishing in Asia from Japanese library’s  
viewpoint ”ICOLC Fall 2006: 8th European Meeting (October 11-14, 2006. Torre Rossa  
Park Hotel, Rome, Italy)。
16. 土屋俊「インターネットによる学術情報流通の変容~知識は誰のためのものか~」電子情報  
通信学会技術と社会・倫理研究会招待講演 (2006年5月19日 千葉大学)。
17. 土屋俊「TEI はなぜ日本で知られていなかったか、知られていないか、知られるようになる  
か」TEI Day in Japan (2006年5月17日 京都大学)。
18. 土屋俊「音声対話コーパスのマークアップ」TEI Day in Japan (2006年5月17日 京都  
大学)。
19. 土屋俊「現代日本の大学改革と学術情報」日本大学出版部協会・電子部会講演 (2005年12

月 15 日 東京電機大学).

20. 土屋俊「これからの電子ジャーナルのグローバルな展開-商業出版・学会出版・オープンアクセス・恒久保存・著作権-」館総合展フォーラム (2005 年 12 月 1 日 パシフィコ横浜).
21. 土屋俊「本という存在の本当の目的について」本の未来、未来の本シンポジウム (2005 年 3 月 25 日、一橋記念国際講堂).
22. 土屋俊「文の意味論が成立するためのいくつかの前提について」2003 年度哲学若手フォーラム (2003 年 7 月 19 日、大学セミナーハウス).
23. Syun Tutiya, “Paradigms, Corpora and Tools in Discourse and Dialogue Research: Corpus Creation as Understanding,” The 4th SIGdial Workshop on Discourse and Dialogue (2003 年 7 月 6 日、札幌コンベンションセンター).
24. Syun Tutiya, “Panel: Fusion of Speech and Language Processing Using Spontaneous Speech Corpora” Tsujii, Tutiya) ISCA & IEEE Workshop on Spontaneous Speech Processing and Recognition (2003 年 4 月 15 日、東京工業大学).
25. 土屋俊「21 世紀初頭における情報倫理学の当面の課題について」情報処理学会 EIP 研究会 (2002 年 12 月 7 日お茶の水女子大学).
26. Syun Tutiya, “Internet Ethics and Education in Japan (An invited Talk)” The First Conference on Human.Society@Internet (2001 年 7 月 4 日, Seoul).
27. 土屋俊「プライバシーと個人情報に関する市民的常識」電子情報通信学会アンテナ研究会 (2000 年 11 月 16 日千葉大学).
28. Syun Tutiya, “Digital Libraries in Japan” (North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (NCC) Year 2000 Conference in San Diego Next Decade Planning Meeting NCC North American Coordinating Council on Japanese Library Resources).
29. Syun Tutiya, “Philosophy of language in light of spoken dialog corpora,” Symposium for Spontaneous Speech Engineering (February 28, 2000, Shinjuku, Tokyo)

## 8 その他の講演・口頭発表

1. 土屋俊「実時空間における言語と行動の統合モデルへ」科学研究費補助金学術創成研究費「言語理解と行動制御」成果報告会 2005.
2. 土屋俊「指示とその修正のための言語表現タイプの分類について」学術創成研究「言語理解と行動制御」シンポジウム (2004 年 3 月 1 日、東京工業大学).
3. 土屋俊「行動と言語を統合的に記述するためのモデル」学術創成研究「言語理解と行動制御」シンポジウム (2003 年 3 月 11 日、東京工業大学).
4. Syun Tutiya, “Social Design for Information Security” 「情報セキュリティの社会技術」ワークショップ (2002 年 3 月 26 日富国生命ビル中会議室).

5. 土屋俊「情報倫理と情報法」電子情報通信学会「情報文化と倫理研究会」(2002年3月15日千葉大学).
6. 土屋俊「大学図書館サービスと著作権」日本図書館研究会シンポジウム(2002年3月11日立命館大学).
7. 榎本美香、土屋俊「オーバーラップされた発話の機能上の特徴について:「いいなかったのになぜ?」」『人工知能学会研究会資料』SIG-SLUD-9903-3、人工知能学会、2000年2月、pp.13-18.
8. 石崎雅人、土屋俊、大谷京子「日本語地図課題対話における主導権に移動に関する試論」『人工知能学会研究会資料』SIG-SLUD-9902-8、人工知能学会、1999年10月、pp.41-47.
9. 市川薫、荒木雅弘、石崎雅人、板橋秀一、伊藤敏彦、柏岡秀紀、加藤佳司、熊谷智子、樽松明、小磯花絵、田本真詞、土屋俊、中里収、堀内靖雄、前川喜久雄、山下洋一、吉村隆「談話タグ標準化の現状」、『人工知能学会研究会資料』SIG-SLUD-9703-07、1998年2月、pp.41-49.
10. 荒木雅弘、市川薫、青柳達也、石崎雅人、伊藤敏彦、柏岡秀紀、熊谷智子、小磯花絵、田本真詞、土屋俊、中里収、堀内靖雄、前川喜久雄、村上雄大、山下洋一、吉村隆、「談話タグワーキンググループ活動報告 Progress Report of The Discourse Tagging Working Group」『人工知能学会研究資料』SIG-SLUD-9701-6、1997年6月、pp.31-36.).
11. 中野有紀子、仲真紀子、堀内靖雄、吉野文、土屋俊、市川薫、石崎雅人、岡田美智男、小磯花絵、鈴木浩之「日本語地図課題対話コーパスの基礎的統計(1)」『人工知能学会研究会資料』SIG-SLUD-9701-4、1997年6月、pp.19-24).
12. 小磯花絵、堀内靖雄、土屋俊、市川薫「地図課題における重複発話の分析」、『人工知能学会研究会資料』SIG-SLUD9601-7、人工知能学会、1996年10月、pp.47-54.
13. 小磯花絵、堀内靖雄、土屋俊、市川薫「言語的・韻律的情報を利用した発話の終了/継続の予測」『人工知能学会 第10回全国大会 論文集』、人工知能学会、1996年6月、pp.407-410.
14. 小磯花絵、堀内靖雄、佐々木聡、吉野文、仲真紀子、土屋俊、市川薫、石崎雅人、岡田美智男、鈴木浩之、中野有紀子「千葉大学地図課題コーパスの作成と利用環境」、『日本認知科学会第13回大会論文集』、日本認知科学会、1996年6月、pp.188-189.
15. 小磯花絵、堀内靖雄、土屋俊、市川薫「先行発話断片の終端部分に存在する次発話者に関する言語的・韻律的要素について」『電子情報通信学会 信学技報』Vol.95 No.600 (NLC95-72)、電子情報通信学会、1996年3月、pp.25-30.
16. 堀内靖雄、小磯花絵、土屋俊、市川薫「自発的音声対話における話者交替の制御に関わる発話末の統語的・韻律的特徴」、『情報処研究報告』Vol.96 No.21 (96-SLP-10-9)、情報処理学会、1996年2月、pp.45-50.
17. 小磯花絵、堀内靖雄、佐々木聡、吉野文、仲真紀子、土屋俊、市川薫、石崎雅人、岡田美智男、鈴木浩之、中野有紀子「千葉大学地図課題コーパス作成・利用環境について~1995年度活動報告~」『人工知能学会研究資料』SIG-SLUD-9503-5(02/09)、人工知能学会、1996年2月、pp.23-30.
18. 小磯花絵、堀内靖雄、土屋俊、市川薫「下位発話単位の音声的特徴と「あいづち」との関連

について」『人工知能学会研究会資料 SIG-SLUD-9501-2(02/09)』、人工知能学会、1995 年  
12 月、pp.9-16.